1331人 まち駆け抜けた

市民マラソン大会

ゲストに北京五輪代表・竹澤さん

２０２３八幡市民マラソン大会が12月３日、市民スポーツ公園を発着点に開催され、市内外１３３１人のランナーが八幡のまちを駆け抜けました。

同大会は、市スポーツ協会や市などでつくる大会実行委員会が主催。今年は摂南大学の協力で、学生がボランティアで参加しました。ハーフマラソン、10㎞、３㎞、２㎞のコースが設けられ、性別や年齢別の15種目で実施されました。

木津川左岸堤防沿いを走る10㎞種目には、ゲストランナーとして北京五輪代表で摂南大学陸上競技部ヘッドコーチの竹澤健介さんも出走。ランナーは沿道や竹澤さんからの声援を背にゴールを目指しました。レース後には、同大学陸上競技部員によるストレッチ教室も行われました。

また、小学３・４年生の３㎞種目には川田翔子市長も出場し、笑顔で完走。小学２年生以下の親子ペア種目は、手をつないでゴールを目指しました。

10㎞種目で一斉にスタートを切ったランナーと竹澤さん（写真左）

手をつないでゴールする親子

小学３・４年生とスタートを切った川田市長

ストレッチ教室の様子

園児が書道 礼儀作法学ぶ

八幡第三幼稚園

12月13日、八幡第三幼稚園の５歳児13人が書道に挑戦しました。

同園では、園児に日本の伝統文化である書道に触れ、礼儀作法を学んでもらおうと、市文化協会書道部会会員を講師に招き、毎年実施しています。

背筋を伸ばして正座した園児は、両手を膝の前につきお辞儀をして「よろしくお願いします」とあいさつ。

その後、講師から「筆を立てて」「トン、スーッ」などと助言を受けながら、真剣な表情で「ことり」の文字をしたため、名前を書いて作品を完成。最後に講師の添削を受けた園児は、花丸のついた作品をうれしそうに見せ合っていました。

吉平彩姫來（よしひらさきあら）ちゃん（５）は「『り』の書き方が難しかったけど、楽しかった」と話していました。

なお、作品は１月16日～28日に市役所４階市民プラザで開催される書初め展で展示される予定です。

講師の筆運びをまねながら筆を運ぶ園児

まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。

みそ仕込みに挑戦

文化センターで手作り教室

「減塩で無添加」好評

12月12日、文化センターで減塩みそ手作り教室が行われ、参加者24人が昔ながらの手作業の仕込みに挑戦しました。

同教室は、市食生活改善推進員が、減塩で無添加の「自家製みそ」を手軽に作ってもらおうと毎年開催。米こうじの配分を増やすことで、おいしく減塩できると評判です。

参加者は、塩と米こうじ、炊いた大豆をまぜ合わせますが、なかなか均一にならず悪戦苦闘。それでも「おいしいみそを作りたい」と、懸命にこね上げ、こぶし大に丸めた「みそ玉」を何個も作り上げました。

そして、空気が入らないよう詰めた容器は各自が持ち帰り、６～８カ月ほど熟成すると完成です。

夫婦で参加した西岡和枝（にしおかかずえ）さん（84）は「１日に２回みそ汁を飲むから減塩はうれしい。おいしいから子どもたちに分けてあげるの」と話していました。

こねた塩や米こうじ、大豆をこぶし大に丸める参加者

今月のこの人

府農林水産業功労者表彰を受彰

福井仁司（ふくいひとし）さん 福井富子（ふくいとみこ）さん

市内で碾茶の生産・加工・販売を営む。長年、地元茶農家の牽引者として茶業の振興と発展に尽力した功績が認められ、令和５年度京都府農林水産業功労者表彰を夫婦で受彰。八幡市在住。

「親から受け継いだ手法を大切に続けてきた。受彰は素直にうれしい」と微笑むのは、茶農家の福井仁司さん、富子さん夫婦。

福井さんは、木津川河川敷で抹茶の原料となる「碾茶（てんちゃ）」を生産。この河川敷の砂壌土で栽培されたお茶は「浜茶」と呼ばれ、緑色が濃く甘みが強いと言われています。

近年、茶農家や摘み子が減少し、機械による収穫が進む中でも「高品質な茶葉の収穫のため、手摘みにこだわりたい」と代々受け継いできた茶園の伝統を守り続けています。

また、お茶の普及のため、自身の碾茶工場に地域の小学生を招き、見学を開催。現在も都々城茶生産組合の役員として、小学校でのお茶育やイベントなどでお茶の奥深さを教えています。

「急須で淹れたお茶のおいしさを知ってほしい。また、木津川周辺の気候は、寒暖の差があり川霧が立ち、お茶の栽培に適した場所だとみんなに知らせたい」と、今後も地元のお茶の魅力を伝えていきます。

本コーナーでは、市にゆかりのある人物や団体を紹介しています。詳しくは、市ホームページまたは秘書広報課へ。